

# 愛媛県立中央病院東洋医学研究所活動報告

所 長	山岡傳一郎
医 師	若松 貴哉
非常勤	光藤 英彦
専攻医	土居 裕和
鍼灸部	村山 功
	上郷 樹夫
	玉井 弘文
	山見 宝
	真鍋 昭生
薬 局	赤崎 達子
	山口 裕子
看護部	武智 久美子(12月転出)
	大下 由美
事 務	山本 靖子
	高市 加奈子
研修鍼灸師	大宮 由起子(鍼灸専攻研修生)
	谷村 依里(鍼灸専攻研修生)
	大塚 素子(鍼灸研修生)
	小林 靖(鍼灸研修生)
	下園 理奈(鍼灸研修生)
	菅沼 泉(鍼灸研修生)
	田嶋 恵子(鍼灸研修生)
	脇口 典子(鍼灸研修生)

## 総合診療部の役割

東洋医学診療科	漢方外来、鍼灸室
総合診療科	女性専用外来、不明熱外来、予防外来 心と身体の外來、セカンドオピニオン外来

なお、光藤は、非常勤医師として、研修鍼灸師の教育指導と鍼灸技術再開発分野を担当している。愛媛県においては、6 つあった県立病院が縮小され、一部の病院は公設民営化が進みつつある。このような施設内での東洋医学運営ニーズがあり、今後が公設民営化された病院での鍼灸室運営を計画している。地域社会構築の一助として東洋医学活用につながる動きとして期待している。

以下に、2006 年度(1月～12月)の業績と活動内容を報告する。

## 東洋医学研究所における診療について

私共の研究所は開所以来一貫して灸療主体の診療を、また 1988 年以後は時系列ケアシステムに基づく診療を続けてきた。過去 20 年は少しずつではあるが徐々に受診者数も増加傾向を続けていたが、ここ数年の受診者数は年間延べ 18000 人前後、新患者数も 600 人前後と横這い状態が続いている。現在、医師 2 名をスーパーバイザーとするオーディット体制のもと、鍼灸師 5 名を統括し、それぞれ漢方担当・鍼灸担当として 2 人担当制で診療に当たっている。また、薬剤師 2 名の診療スタッフがそれぞれの見地、立場からチーム医療としての QOL 志向の統合医療を支えている。また「お灸文化」を 21 世紀以降へ残し発展させるための土台として、ボランティア施灸コーナーの開設や、地域社会における灸療ボランティアの支援を図る教室(初級、中級、上級)を開催している。

## 東洋医学研修事業について

東洋医学に関する研修事業は、本来的には、医師、鍼灸師、薬剤師、看護婦、受付一般の 6 部門においてそれぞれ必要性があると考えられる。私共のところでは、医師と鍼灸部門及び一般部門での研修が始まっているが、将来的は上記 6 部門のすべての研修事業を試みる予定である。

医師部門では、平成 5 年度より東洋医学専攻研修医制度を設け、すでに専門的な臨床経験を積ん

## 1. 研究所概要と診療状況

愛媛県立中央病院東洋医学研究所は 1979 年(昭和 54 年)開設以来、初代所長を務めた光藤が定年退職を迎え、新たに山岡が所長となり東洋医学研究所の運営に当たるようになった。なお、東洋医学研究所医師は、総合診療部を兼任し、総合診療部外来・入院、へきち医療支援、2 次 3 次救急診療、臨床研修医指導にも当たる。

当院では、平成 25 年度完成をめざす新病院建て替えが進行している。新病院では、総合診療部と東洋医学研究所の関係は、以下のように設置される予定である。東洋医学診療科においては、西洋医学を補完する代替医療の核として東洋医学による診療を行い、漢方外来を実施するとともに、東洋医学的治療を鍼灸室で実施する。総合診療部に総合診療科と東洋医学診療科を設置する。総合診療科において一般内科診療及び専門診療分野のスクリーニングを実施すると共に、下記の専門外来を実施する。

だ専攻医が、毎年1名ずつ統合医学としての東洋医術（鍼灸・湯液両方）の研修を行っている。今までに4名の専攻医が育っている。将来東洋医学を専攻することを目的として全科的なローテイト研修を始めた新卒研修医が育ちつつある。また将来的には全国公募の研修医制度を実施することが期待されている。

鍼灸部門では、平成9年4月より鍼灸技術研修プログラムを開始した。この研修は、主に次の5つを目的としている。

- (1) 高齢社会における『お灸によるケア』の指導者としての技量の養成
- (2) 全人的病人把握法としての問診法(時系列分析法)のマスター
- (3) 鍼灸・漢方を含む東洋医学全般の学習
- (4) 現代医学の基礎学習と実施研修
- (5) 現代医療のチーム医療の中でのメディカルスタッフの一員としての臨床的鍼灸実践

今年で10年目を迎えた事業であるが、今までに12名の研修鍼灸師が研修を終え社会に飛び立っていった。平成18年度は全国各地から6名の研修生を迎え入れ、2年目の研修生と合わせて5名の研修生が日々臨床実習と多方面の学習に日々励んでいる。また西海町国保健康づくり推進事業として、平成8年度から5年間、国(厚生省)と町(西海町)の協力によって実施された灸療普及技術支援活動で協力を得た、福浦診療所の大川医師のもとでの、より実践に即した短期臨床研修も計画している。研修生はこれまでは関西鍼灸短期大学や明治鍼灸大学の卒業生が主であったが、平成12年度から専門学校卒業生も対象とした体制を取っている。平成19年度も若干名の研修生を受け入れる予定で、今後も鍼灸技術研修事業は継続するつもりである。

#### 灸療ボランティア活動について

東洋医学研究所は開所以来、一貫して灸療を中心とした診療を続けてきた。四国地方は昔からお灸が盛んな土地柄で、県民にもなじみ深い療法として知られている。しかし近年、核家族化が進み一人暮らしのお年寄りや高齢者だけの家庭が増え、自宅で背中にお灸のできない人が目立ち始め、研究所の診療システムになじまない人が多く見かけられるようになった。そこで、背部施灸のできない人たちに灸療の良さを理解してもらい、その普及と鍼灸師の研修を兼ねる目的で、平成13年3月より、スタッフ鍼灸師の指導下での研修鍼灸師による灸療ボランティアサービスの提供を以下の要領で開始した。

- (1) 対象者は東医研通院患者とし、通常の診療日以

外に実施する(通常の再診と区別するため)。  
(2) 施灸ボランティア活動は午後のみとし、研修鍼灸師が担当する。

(3) 施灸は背部施灸を中心とし、できるだけ自己施灸・家族施灸へ指導・誘導する。

2001年(平成13年)3月から開始した活動であるが、初年度は延利用者総数317名、2002年度では、延668名、月平均56名、2003年度では、延1751名、月平均146名にのぼった。2004年度は延2643名、月平均220名、2005年度も延2800名を越え、月平均230名、今年度は延3500名を突破し、月平均324名となっている。最近では施灸人員を確保するのが難しい状況になってきた。本来は自己施灸や家族施灸の指導を行っていきたいが、なかなかうまくいっていないのが現状である。しかし東洋医学研究所としては、「お灸文化」の存続・継承をはかり今後も引き続き行っていくつもりである。

#### 灸療ボランティア支援教室の開催について

前項の「灸療ボランティア活動」に対して希望者が増加してきており、職員や研修生だけでは限界にきていて、家庭でお灸をすえたいという人を支援する「灸療ボランティア支援教室」を平成15年4月(毎年4回)から開始した。これは平成13年3月より所内にて開始した施灸ボランティア活動の延長線上と考え、地域社会において標準的な灸療の教養を身につけたボランティアの活動を支援することを目的とした教室である。対象者はえひめ東医研の患者のみならず、県立中央病院の患者・職員とその家族を中心に施灸ボランティアに関心のある人とした。講座内容としては初級、中級、上級の3つに分かれており、初年度(平成15年)はの初級入門講座を4回(4月、7月、10月、1月)実施した。内容として、健康灸のススメ・日常施灸の注意事項・標準的な施灸をするコツ・灸療の意義や適応症、その他灸療に関するノウハウなどを取り上げた。平成16年度からはの中級教養講座として、基本灸療学習コースの他に生薬学習コースも加えた講座内容で開始した(年4回)。H17年度からは上級専門講座として領域別事例紹介(深谷伊三郎氏の事例より取り上げた)と東洋医学的診立てと時系列分析学習などの講義も開始し、優秀な施灸ボランティアの育成に力を注いでいる所である。この支援活動が地域社会における施灸ボランティアの拡大につながっていくことを期待したい。

#### 東洋医学啓蒙活動について

愛媛県内の各市町村だけでなく他の府県からの

東洋医学全般の講演・健康まつりなどの実施依頼に対して、灸療による健康作りや講演会の開催及び灸療実技などを中心として、東洋医学の啓蒙活動に努めてきた。愛媛新聞カルチャースクールや、単発的な講演会などは以前からあったが、高齢化社会を迎えて東洋医学の需要が増大していくと予想され、これからは定期的な継続事業として力を注ぐつもりである。東洋医学にとって鍼灸と漢方が車の両輪に例えられるように、鍼灸だけでなく漢方薬の啓蒙にも力を注いでいきたい。

#### 『光藤英彦先生定年退職記念講演会』

平成 18 年 2 月 18 日に県立中央病院講堂において、スタッフ及び、東洋医学研究所 OB を招いて『光藤英彦先生退職記念講演会』が開催された。内容は一部紹介すると、穴位主治の伝承における医心方の意義、伝統東洋医術の適応としての慢性健康障害と時系列分析、愛媛東医研の歴史的沿革と灸療普及活動について、時系列分析ケアシステムが誕生するまで、愛媛研修プログラム、古代刺法の復元等について講演された。又、光藤英彦先生の東医研 27 年間の歩みをまとめた『光藤英彦先生定年退職記念論文集』が刊行された。

## 2. 学会報告

### < 論文 >

### < シンポジウム >

- 1) 山岡傳一郎：シンポジウム：鍼灸の教育・研究と制度をどうするか「師弟関係から研修制度への変換」。第 55 回全日本鍼灸学会学術大会、金沢市、2006、

### < 特別講演 >

- 2) 山岡傳一郎：公開講演「灸コミュニケーション」、第 55 回全日本鍼灸学会学術大会、金沢市、2006、

### < 一般演題 >

- 3) 玉井 弘文 小林 靖 山岡 傳一郎：腰部脊柱管狭窄症を指摘されている右下肢の痛みシビレ、腰臀痛を訴える 70 才女性の一事例。日本東洋医学会中四国支部第 35 回愛媛県部会、松山市男女共同参画推進センター (COMS)、松山市、2006、9、10
- 4) 上郷 樹夫 菅沼 泉 山岡 傳一郎：肩凝り、下肢しびれ、胸の違和感が細絡刺絡、灸療が奏功したと思われる一事例。日本東洋医学会中四国支部第 35 回愛媛県部会、松山市男女共同参画推進センター (COMS)、松山市、2006、9、10
- 5) 山見 宝 大宮 由起子 大塚 素子 山

岡 傳一郎：担癌患者の一ケア例。日本東洋医学会中四国支部第 35 回愛媛県部会、松山市男女共同参画推進センター (COMS)、松山市、2006、9、10

- 6) 村山 功 谷村 依里 下園 理奈 山岡 傳一郎：冷えが関連していると思われる尿もれを主病症とする 78 歳女性の一事例。日本東洋医学会中四国支部第 35 回愛媛県部会、松山市男女共同参画推進センター (COMS)、松山市、2006、9、10
- 7) 真鍋 昭生 脇口 典子 田嶋 恵子 山岡 傳一郎：顔面神経麻痺に改善の診られた 1 症例。日本東洋医学会中四国支部第 35 回愛媛県部会、松山市、2006、9、10
- 8) 若松 貴哉 山岡 傳一郎：産後の乳汁分泌過少症に対する針灸治療例 ( 劇的症例 )。日本東洋医学会中四国支部第 35 回愛媛県部会、松山市男女共同参画推進センター (COMS)、松山市、2006、9、10
- 9) 村山 功 谷村 依里 山岡 傳一郎：頂部充血班に対して刺絡術が有効であったと思われる長期ケア例。日本刺絡学会、タワーホール船堀大ホール、東京都江戸川区、2006、6、25
- 10) 真鍋 昭生 山岡 傳一郎：刺絡療法が有効であったと考えられる 1 症例について。日本刺絡学会、タワーホール船堀大ホール、東京都江戸川区、2006、6、25
- 11) 大宮 由起子 山見 宝 山岡 傳一郎：QOL の向上に寄与したと思われる 1 症例～伝承東洋医術の運用例～。日本刺絡学会、タワーホール船堀大ホール、東京都江戸川区、2006、6、25
- 12) 真鍋 昭生：刺絡鍼法について。日本刺絡学会第 7 回大阪刺絡鍼法講習会、森ノ宮医療学園専門学校、大阪市、2007、1、21
- 13) 山見 宝 大宮 由起子：愛媛東医研における刺絡の実際 ( 講義・実技 )。日本刺絡学会第 7 回大阪刺絡鍼法講習会、森ノ宮医療学園専門学校、大阪市、2007、2、11
- 14) 真鍋 昭生：東洋医学と健康「講演」。愛媛県高齢者大学校、愛媛県民文化会館別館、松山市、2006、9、13
- 15) 玉井 弘文：東洋医学と健康 お灸のすえ方とツボのとらえ方。泉町地区老人福祉健康講座、松山市泉町公民館、松山市、2007、2、8
- 16) 村山 功 山岡 傳一郎：冷えが関連していると思われる尿失禁を主症状とする 78 歳女性の 1 事例。第 44 回愛媛県立病院学会、愛媛県立新居浜病院、新居浜市、2006、11、18
- 17) 玉井 弘文 若松 貴哉：姑 ( 認知症 ) の介護で背景として右網膜静脈分岐閉塞を発症し

- た 53 歳女性の 1 事例。第 44 回愛媛県立病院学会、愛媛県立新居浜病院、新居浜市、2006、11、18
- 18) 上郷 樹夫 菅沼 泉 山岡 傳一郎:肩凝り、下肢しびれ、胸の違和感が細絡刺絡によって奏功したと思われる 1 事例。第 44 回愛媛県立病院学会、愛媛県立新居浜病院、新居浜市、2006、11、18
- 19) 玉井 弘文 若松 貴哉:尋常性乾癬をもつ病人ケアの 1 事例。第 55 回全日本鍼灸学会(金沢大会)、金沢 21 世紀美術館、金沢市、2006、6、17
- 20) 上郷 樹夫 山岡 傳一郎:膈俞穴の 2 系統の主治について示唆の与えられた 1 事例。第 55 回全日本鍼灸学会(金沢大会)、金沢 21 世紀美術館、金沢市、2006、6、17
- 21) 上郷 樹夫 山岡 傳一郎:膈俞穴の 2 系統の主治について示唆の与えられた 1 事例。第 14 回日本鍼灸史学会、京都市国際交流会館、京都市、2006、11、25
- 22)山岡傳一郎:海外派遣カナダ・アメリカ出張報告。第 44 回愛媛県立病院学会、愛媛県立新居浜病院、新居浜市、2006、11、18
- 23) 若松貴哉 山岡傳一郎 光藤英彦:産後乳汁分泌不全に対するケア。第 57 回日本東洋医学会学術総会、大阪国際会議場、大阪市、2006、6、25
- 24)山岡傳一郎:連携パスのシンポジウム「連携パスは、どこから来て、どうあり、どこへ行くのか」、愛媛クリニカルパス学会、松山市コミュニティセンター、2006.6.11

### 3 . その他の報告、講演等

- 1) 山岡傳一郎:生活歴の中にある糖尿病増悪因子、愛媛糖尿病研究会、2006.3.25
- 2) 山岡傳一郎:愛媛・仏教と医療を考える会、「東洋医学的養生法」、えひめ共済会館、松山市 2006、11、25
- 3) 山岡傳一郎:ケアワークモデル研究会、「時系列分析を用いた診断・治療・健康管理」、昭和大学、東京 2006.11.22
- 4) 山岡傳一郎:社会人類学からみた東洋医学、若手漢方研究会『神無月の会』、神戸、2006.1.28
- 5) 山岡傳一郎:「難病」をかかえる患者様への東洋医学的ケア、松山市保健センター、2006.11.3
- 6) 山岡傳一郎:「口から見た東洋医学」、松山市保険医協会、2006.6.10
- 7) 山岡傳一郎:phil 漢方特別対談『裾野の広い臨床医学を求めて』大阪 2006.11(京都府立医科大学 東洋医学講座助教授 三谷和男先生との対談)